



鹿児島県国際交流協会 からのお知らせ

8/16 (土)
13:00~16:00

申込みは
こちら



鹿児島県青少年国際協力体験事業

「スタディツアーin ベトナム」 帰国報告会

県内の中高生 18 名が 7 月にベトナムを訪問。
現地での体験を、熱い想いとともにご報告します！！

会場:カクイックス交流センター
3 階 大研修室第 2

8/30 (土)
13:30~16:00

申込みは
こちら



ワーキングホリデーセミナー

海外で学ぶ・働く・生活を体験してみませんか？
現地の様子や渡航手続き、語学学習のコツなどをご紹介！
皆様のご参加をお待ちしています！！

会場:カクイックス交流センター
3 階 中研修室第 1

講師:日本ワーキングホリデー協会職員

10/4 (土)
10:00~15:00

JICA 鹿児島による
「缶バッジづくり・パネル展示」
もあります！

「ベトナムのドンホー版画」体験

薩摩川内市の国際交流フェス 3020 に
鹿児島県国際交流協会が出店します！

ドンホー 日常生活や風習などを描いた
版画って？ ベトナムの民間絵画のことです

会場:薩摩川内市国際交流センター
エントランス (交流体験ブースでの出店)

さん か し ゃ
参加者
ぼ し ゅ う
募集

かごしま せかい かた
鹿児島で世界を語ろう
だ い かい がいこくじん
第 31 回 外国人による
にほんご
日本語スピーチコンテスト

けんないざいじゅうがいこくじん さんかしゃ ぼしゅう
県内在住外国人の参加者を募集します！
くわしい内容は 9 月頃 (予定) に当協会 HP でお知らせします。

もうしこみしめきり
申込締切 11 月 28 日

～スピーチコンテンツ概要～

にちじ よせん ねん がつ にち ど
日時:《予選》2026 年 1 月 10 日 (土)

ほんせん ねん がつ にち ど
《本選》2026 年 2 月 7 日 (土)

かいじょう こうりゅう
会場:カクイックス交流センター

「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は、年々増加傾向にあります。

『国際交流ひろば』では、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。

今回は、4月に出水市 CIR に着任したブラジルご出身の **銅網 メロ アンジェラ あゆみ** さんをご紹介します。

ご出身について教えてください。



一生まれは愛知県安城市です。愛知県の西三河地区は日系ブラジル人が特に多く住む地域で、14歳まで過ごしました。中学卒業後、両親の故郷であるブラジル北部にあるアマゾン川河口の都市ベレンに移り、高校、大学に進学しました。

出水市 CIR

銅網 メロ アンジェラ あゆみ さん

あゆみさんのルーツを教えてください。

—私は、日系3世のブラジル人です。祖父は島根県、祖母は福島県の出身で、2人も戦後同じ時期に家族で渡伯したと聞いています。後にその子どもたちが、出稼ぎとして日本に来た際に、私が生まれました。



ブラジル・ベレンの様子

日本に来たのは、いつ以来ですか？

—14歳で日本を離れましたが、大学時代に1年間、留学生として東京で過ごしました。

大学入学前から日本語教師の仕事をしていて、研修会で出会った方に留学を勧められたのがきっかけです。当時は大学をやめようか悩んでいて、一度休学して日本へ行きました。

その経験が自信になり、無事に卒業。卒業後はフリーランスで日本語教師や翻訳の仕事をしたり、ブラジリアの日本大使館で勤務するなど、日本とのつながりは続いていました。

出水市での生活はどうですか？

—4月に出水に来て、まだ数ヶ月ですが、地域の皆さんが気さくに声をかけてくれて、本当に嬉しいです！ ごみ出しやスーパーのレジでも「どこの国から来たんですか？」と聞かれることが多く、愛知にいた頃にはなかったのが、とても新鮮です。

あと、醤油が甘いのに驚きました。夫が元シェフで、いろんな種類を買って試していたら、気づけば家に45本もありました（笑）。

日本語力の高さに、国籍の違いを忘れてしまいそうです。

—ありがとうございます。でも、語学については、日本語もポルトガル語も、とても苦勞した記憶があります。

幼い頃は祖母と暮らしていたので家庭では日本語、保育園も日本の施設でした。ただ、ポルトガル語が話せなかったのが、小・中学校はブラジル人学校に通うことになったのですが、言葉が出てきたのは10歳頃でした。その頃祖母が亡くなり、家庭での会話もポルトガル語に変わりました。学校でもほぼポルトガル語、日本語は授業だけ。そういう環境だと、日本語って忘れてしまうんですね。

でも、母には「ブラジルに戻りたい」という強い思いがあり、「ポルトガル語を話せないでダメ。でも、日本の血が流れているんだから、日本語もしっかり学びなさい。」と、とても厳しかったです。勉強嫌いな私には大変でしたが、母にあの手この手で脅されながら学ばされました（笑）。今では、本当に感謝しています。

ブラジル人学校の幼馴染みは「愛知ではポルトガル語だけで生活できる。日本語は必要ない。」と日本語を学ぼうとしませんでした。が、後に後悔していました。ブラジル人学校で学ぶポルトガル語と現地の言葉には差があります。その子はブラジルに戻ったあとと苦勞し、「あの時、日本語をきちんと学んでいたなら、違う未来があったか

も。」と話していました。

その話は他人事ではなく、私自身も似た経験があります。中学卒業後渡伯し、現地の高校に進学しましたが、やはり言葉の壁にぶつかりました。習得の差もあるし、ベレンのポルトガル語はイントネーションが特徴的で、何を言っているのか全くわからず最初の1年は修行のようでした（笑）。

2つの国のあいだで、悩みや戸惑いはありましたか？

—子どもが外国で育つて、アイデンティティが定まりにくい気がします。私は、日本でも、ブラジルに帰っても外国人扱いされ、ブラジル人だけポルトガル語もまともに話せない。「私って何なんだ！」というモヤモヤをずっと抱えていました。

そんな私にとって、ブラジル人学校で日本語を教えてくれた「ゆき先生」は、人生のキーパーソンの1人です。先生は「両国の言語が話せることで、将来の選択肢が広がる。」とよく話してくれました。

でも、何度もぶつかり、ときには暴言をぶつけ合うこともありました。先生も余裕がなかったのかもしれませんが、私のモヤモヤを受け止めてくれたんです。吐き出す中で、「何に悩んでいるのか」「どうしてほしいのか」を少しずつ人に伝えられるようになりました。あの喧嘩は、自分の気持ちを他者に伝えるための、必要な過程だったと思います。

そのモヤモヤは今もありますか？

—この悩みは一生尽きないかも。でも、嬉しかった言葉があります。

当時は「私はブラジル人？それとも日本人？」と悩み、自分にラベルが欲しかったんです。そんなとき、大使館の日本人の同僚から「あゆみは理想的なハーフだよ」と言われました。私は日本国籍を持っていないので、「ハーフ」という言葉にピンときませんでした。でも、「日本とブラジルの両方で生活し、両方の文化と言語を知っている。言葉の微妙なニュアンスも理解できる。これはすごいことで、完璧なハーフだよ。」と話してくれたんです。

「ハーフ」と言われて嫌な人もいられるかもしれませんが、私は素直に嬉しかった。「ブラジル人だけでなく、日本人でもある」と言われている気がして、その言葉が心にスッと入ってきました。

食べ物でもそう感じます。私はブラジル料理にも和食にも馴染みがありますが、ブラジルの「シュラスコ」と日本のお米で作る「おにぎり」これが最高の組み合わせで、一番の故郷の味です。

これまでの経験の中で、今の仕事に生かせることはありますか？



—たくさんあります！現在、私は出水市の初代 CIR として多文化共生推進室で働いています。毎週、市主催の日本語教室で教えていますし、市内の小学校で外国ルーツの子どもたちへの日本語支援も行っています。

子どもたちと接していると、自分の経験と重なり、熱い気持ちになります。外国で暮らし、言葉が通じないことで不安や悩みは尽きません。でも、日本と母国、二つの文化を持つことを誇りに思っています。どうすればこの子たちの未来の可能性を広げられるか、常に考えています。

今後は子どもたちだけでなく、周囲の大人一親や先生にも、自分の経験や支援の大切さを伝えていけたらと思います。他にも、ブラジル文化の紹介や、移民への理解を深める講座も企画中です。8月には外国ルーツを持つ子どもたちとブラジル料理を作ります。皆様にも少しでもブラジルを感じられるよう頑張ります！

ことばでつなぐ Kagoshima

鹿児島島の外国人が、地域の中で安心して暮らせるように——
ことばを通して人と人をつなぐ、鹿児島島で活躍する日本語教師
たちの思いと活動を紹介します。

きりしまにほんごきょうしつ(霧島市)
代表 本田 佐也佳 先生



先生が日本語教師の道を志されたきっかけや、日本語教師という仕事に対する思いをお聞かせください。

—ニュージールランドにいた頃、日本語を教える機会があり、「教えるのって面白いな」と思ったのがきっかけです。帰国後は独学で日本語教師の試験勉強をしながら、鹿児島市内の日本語教室にボランティアとして参加しました。そこで初めて「地域日本語教室」という場を知り、学習者のルーツはもろろん、在留資格が様々で、それぞれ違う課題を抱えていることに気づかされました。例えば、既婚の方なら、妊娠・出産や保育園の情報など、今後直面しそうな困りごとを、こちらがあらかじめ知っておくことで、少しでも暮らしやすくてできると思っただけです。日本語教師は、単に言葉を教えるだけでなく、学習者の生活環境や背景にも目を向け、寄り添うことが大事だと、そのとき強く感じました。



現在は「地域日本語教育コーディネーター」としても活動されていますね。

—はい。日本語教師は、日本語を教えるだけの存在ではないと感じていた頃、文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター」の研修に出会いました。

学習者のライフステージに応じた支援を調整し、行政や教育機関に働きかけるなど、語学支援を超えて、外国人が地域の一員として安心して暮らせる環境づくりを担う役割です。ですが、鹿児島にはコーディネーターもほとんどいませんし、その重要性も認識されていないのが現状です。行政の色々な課をまわって話をしましたが、「前例がない、予算がない、人がいない」と言われ続けました。でも、何もしなければ課題は積み重なるばかり。であれば、できることから、できる範囲でやろうと思っ、「きりしまにほんごきょうしつ」の活動を続けています。

「きりしまにほんごきょうしつ」について教えてください。

—2021年に県主催の「日本語サポーター養成講座」を受講し、そのときの仲間に声をかけて、「きりしまにほんごきょうしつ」の活動を始めました。最初はすぐに日本語教室を開くつもりでしたが、「教えるのは不安」という声もあり、まずは「全員でできることから始めよう」と話し合いました。スタッフ全員の力を活かすこと、そして「地域の日本人と外国人にとっての居場所」をつくることを大事にしたかったので、教室という形にはこだわらず、月一回開催の「カンパセーションナイト」を始めました。予約不要で子どもから大人まで誰でも参加でき、日本語でしゃべりする交流の場です。活動が続ける中で、日本人が「当たり前」の違いに気づけたり、外国人が悩みを打ち明けられる場にもなっていました。さらに、「外国人同士、日本人同士のつながりの場」にもなり、同じ国の先輩が後輩をサポートする姿も見られます。参加者が日本語サポーターとして協力してくれるようになり、つながりが少しずつ広がっています。



カンパセーションナイト

その他の活動についても聞かせてください。



日本語サポーターと日本語教室受講生

—今では、活動の幅も広がっています。霧島市職員向けの「やさしい日本語講座」や、市委託の「日本語サポーター養成講座」、企業内の日本語教室、小学校での外国ルーツ児童への支援や、多言語多文化絵本の読み聞かせ「ことばのおにわ」などにも取り組んでいます。

そして、生活者向けの日本語教室も始まりました。生活者といっても、バックグラウンドは様々です。中学生の子どもを持つお母さんが受講していますが、部活の保護者歓迎会に向けた自己紹介をロールプレイで練習したことも。「〇〇の母です」という日本独特の表現も、丁寧に説明する必要がありますよね。そうした小さな壁を越えて、自信を持って生活できるよう、学習者の環境に寄り添った授業を心がけています。地域日本語教室は、学習者だけでなく配偶者など日本人の家族も関わりながら、「安心

の居場所」にしていきたいです。

ただ、これらの多くの活動は助成金頼りで、予算が尽きれば終わってしまうのが現状です。一団体では限界があり、必要な場所に継続的に資金が届く仕組みが求められています。

これらの取組みは大変なことも多いと思います。活動を続ける思いをお聞かせください。

—霧島市の外国人の多くは技能実習生です。彼らは市の経済を支え、税金も納めていますし、いずれ結婚や出産を経て、この地に住み続けてくれるかもしれません。そうなれば、担い手不足の分野で大きな貢献の可能性があります。でも、これまでに実習生に限らず、多くの外国人が霧島を離れていくのを見てきました。働き盛りの人たちが出て行ってしまうのは、市にとっても、育てた企業にとっても大きな損失です。だからこそ、地域の皆さんが関わり、外国人を孤立させず、地域の一員として迎えていくことに意味があると思うんです。

私は結婚を機に霧島にきましたが、子どもたちにとってはここが故郷です。この地域がもっとよくなるように、外国人が増えていくこれからの時代に向けて、今できることを今やっておきたいと思っています。

でも、無理はしていません。無理をすれば続きませんから。教室のスタッフにも「自分のプライベート、自分と家族の健康が最優先。できるときにできることで十分」と伝えていきます。無理のない活動の仕組みを考えることも、私の大事な役割の一つです。

行政などへの要望を教えてください。

—一番お願いしたいのは、「多文化共生推進プラン」を策定していただくことです。今は、外国人に関することは国際交流協会が担当」という流れが強く、私が教育委員会や社会教育課に相談しても、「それは国際交流協会へ」と言われてしまう。でも、そもそも国際交流協会からスタートしているんです(笑)。

「外国人だから」ではなく、一人の地域住民としての暮らしの課題として、各部署が連携し、横断的に取り組める体制が必要だと思っています。そのうえで、行政だけでは手が届かない部分は、地域の団体や住民が補っていく。出水市のように多文化共生をがんばっている自治体もありますし、地域全体で知恵を出し合いながら、取り組んでいけたらと思います。

～JICA 海外協力隊発足 60 周年を迎えました！～

1965 年に、ラオス・カンボジア・マレーシア・フィリピン・ケニアの 5 か国に 29 名を派遣したところから始まった JICA 海外協力隊は、2025 年で 60 周年を迎えます。これまで農林水産、保健・医療、社会福祉、商業・観光等含む 9 つの分野、190 以上の職種で、隊員の皆様がそれぞれの技術・経験を活かし、開発途上国の人々のために活動してきました。

2020 年には、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、全世界の隊員が一時帰国を余儀なくされましたが、今では 74 か国での派遣が再開し、2024 年 12 月には累計派遣隊員数が約 57,000 人に到達しました。

60 周年記念事業のテーマは、「世界と日本を変える力」です。世界と日本に変革をもたらす JICA 海外協力隊の姿を、多くの皆様に知っていただけるよう、60 周年を記念した様々な企画を予定しております。ぜひ「世界と日本を変える力」をご体感ください。

☆直近のイベント情報☆

①9/7(日)世界の果てまでイッテ QITA! @南さつま

「グアテマラ隊員体験談×生米マフィン試食付」

②9/12～10/14 JICA 海外協力隊秋募集開始!

☆9/23(火・祝) JICA 海外協力隊募集説明会

(センテラス天文館図書館・15:00～)

③高校生による JICA 隊員インタビュー企画!

「世界のセンパイに聞く! 海外協力隊のリアルな本音!」

☆9 月から順次 JICA 九州 HP 等に掲載予定です。

イベントの詳細は ♀ **JICA デスク鹿児島** をチェック!



JICA 海外協力隊に関する情報を発信中

さらに詳しい情報は WEB サイトへ



▲公式 Instagram
@jica_kyoryokutai



▲JICA 海外協力隊 WEB サイト
JICA 海外協力隊

JICA デスク鹿児島 担当: 仮屋 TEL: 099-221-6624 (公財)鹿児島県国際交流協会内

がいこくじんそうごうそうだんまどぐち 外国人総合相談窓口

かごしま す がいこくじん かた そうだんまどぐち
鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口
です。生活、在留資格、労働、医療、福祉などで困った
ことがありましたら、お気軽にご相談ください。

たいおうげんご にほんご えいご ちゅうごくご かんこくご
対応言語: 日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/
タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/
タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレ
ー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モン
ゴル語/シンハラ語/ヒンディー語/ベンガル語/ウクラ
イナ語/ウルドゥー語

かごしまけんこくさいこうりゅうきょうかい
鹿児島県国際交流協会内

TEL: 070-7662-4541

E-mail: kiasoudan@gmail.com



Facebook



← 天文館方面

霧島方面 →

本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会

(火曜～日曜 9:00～17:00)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50 カクイクス交流センター1階
(かごしま県民交流センター1階)

Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643

URL: <https://www.kiaweb.or.jp/>

Email: kia@kiaweb.or.jp

Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc>

「国際交流ひろば」は、ホームページにも掲載しています。ご自由にダウンロードしてください♪